

二〇一五年三月三十一日(王子動物園参加者一四名)

春愁や長さの違ふぞうの牙	満	天
フラミンゴ首をS字にして昼寝	満	天
広げたる孔雀の羽根に春日燦	満	天
春天をのぼりつめたる観覧車	満	天
子等駆ける余地なく混める花筵	満	天
花の径抜けて緑の異人館	ひ	かり
春眠をむさぼるばかり檻の獅子	ひ	かり
パンダ舎に行列なせる薄暑かな	ひ	かり
薄目してプールの河馬は春眠し	ひ	かり
観覧車いま天辺や山笑ふ	ひ	かり
花疲れ出口に迷ふ遊園地	う	つぎ
花に浮き花に沈みて観覧車	う	つぎ
園うらら猿にキス受く硝子越し	う	つぎ
接吻の真似する猿や園うらら	明	日香
煌めけるアスカプールの春日かな	明	日香
園薄暑手にいっぱいの服さげて	明	日香
春愁か象後ずさりするばかり	小	袖
推敲のベンチは花の文学館	小	袖

春日洩る館に爆睡するコアラ

花陰に屯す園のフラミンゴ

手作りの花見弁当お裾分け

春光に羽広げたる白孔雀

吟行句会みのる選

二〇一五年三月三十一日(王子動物園参加者一四名)

わかば

わかば

よう子

宏 虎